

果樹農家のみなさまへ、時季ごとの耳より情報をお届けします



## 低温要求量



- 植物の年間のライフサイクルにおいて、生長活動が一時的に停止し、代謝が最低限に抑えられる状態を**休眠**と呼びます。
- 落葉果樹の芽は夏季に形成された後、休眠に入り、越冬後、翌年春に休眠明けとともに**発芽**を迎えます。
- 休眠がスッキリと明け、開花や発芽が揃うためには樹種や品種ごとに異なる**一定時間の低温**に遭う必要があります(図)。
- これを**低温要求量**と呼び、7.2℃以下に遭遇した積算時間で表します。山梨県内では**ブドウで約800~1200時間**、**モモでは約1000時間**を目安としています。
- 低温積算時間の現時点での状況は、果樹試験場のホームページで確認できます。

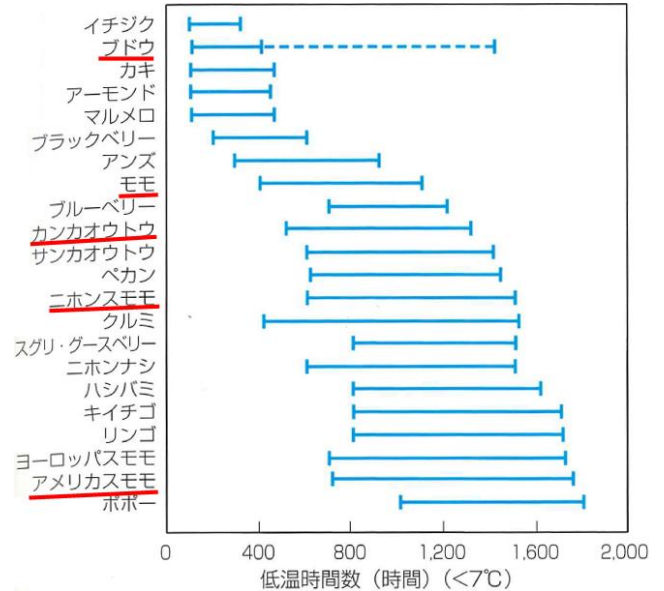


図. 各種果樹の低温要求量(Westwood, 1993)  
樹種に表示されている範囲は、樹内の低温要求量の少ない品種と多い品種の差異を示す。



## 鳥のおしっこ



- 動物の体内では、絶えず発生する有害物質の**アンモニア**を他の無害な物質に変えて体外に放出する仕組みがあります。
- 哺乳類はアンモニアを**尿素**に変え、水分を加えて**尿**として単独に放出します。
- ところが、鳥では空を飛んだり、雛が卵の中に閉じこもり発育するため、多量の水分を必要とするこの方式は不都合です。
- そのため、鳥は尿素をさらに濃縮度が高い**尿酸**に変えてから、フンと一緒に放出します。これが白く見え、肥料の**鶏ふん**が窒素成分を多量に含む理由となります(写真)。



写真. 駐車中の鳥フン被害